

日本を再発明する

テッサ・モーリス＝スズキ 著

伊藤 茂 訳

著者は、オーストラリア国立大学で日本史を講ずる歴史学者。長年の日本研究を踏まえた本書は『菊と刀』など、海外研究者による日本文化論の系譜の中に位置付けられる。同時に、日本論の期を画した書でもある。日本についての紋切り型のイメージを排し、「日本とは何か」との問いに虚心に向き合って、新たな日本像を提示しているのだ。印象的な書名は、そのことの謂である。

各章には「日本」「自然」「文化」「人種」「文明」などの概念が章題として掲げられる。それらの概念は、日本において

自然や文化、人種を考察

いかなる起源をもち、どんな進化を遂げてきたのか？ 概念の歴史をたどることを通じて、日本という国のナショナルアイデンティティー（国民としての自己認識）の形成

照射していく。つまり、日本の歴史を内側に深掘りするのではなく、近・現代史の中で日本がさまざまの意味で境界を踏み越えていった時の、境界線の変化に注目して日本の再定義を試みたのである。

原著は1998年刊だが、日本という国の座標軸を捉え直した本書は、日本の右傾化、近隣諸国との摩擦が顕著な今こそ読まれるべきだ。より開かれた日本を構築しゆくヒントがちりばめられた、グローバル時代にふさわしい日本論。

（硝）

●以文社・3024円

